レディーミクストコンクリート配合計画書

No.

2025 年 4 月 1 日

殿

呉コンクリート株式会社
呉市広大広二丁目１８番２９号

配合計画者名 岡田 哲郎

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間 a)	3月1日～ 6月10日、10月1日～ 12月20日（標準配合） 左記以外の期間は備考欄に記述。
コンクリートの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法 b)	BB
指定事項（任意）	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	― kg/m³
	舗装コンクリートの強度試験方法	―	コンクリートの温度	― ℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水セメント比及び／又は水結合材比の目標値の上限	60 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		
	塩化物含有量	0.30 kg/m³以下	単位水量の目標値の上限	― kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	― 日	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	― kg/m³
	空気量	― %	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	― cm

使用材料 c)

セメント	生産者名	UBE三菱セメント㈱		密度 g/cm³	3.04	Na2Oeq % d)	―
混和材	製品名	―	種類 ―	密度 g/cm³	―	Na2Oeq % e)	―

骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分 f) 区分	試験方法	粒の大きさの範囲 g)	粗粒率又は実積率 h)	密度 g/cm³ 絶乾	表乾	微粒分量の範囲% i)
細骨材	①	砕砂	広島県呉市広町字蜘蛛取迫	A	化学法	5.0以下	2.75	2.58	2.62	3.5±1.5
	②	砕砂	大分県津久見市上青江戸高鉱山	A	モルタルバー法	5.0以下	2.85	2.61	2.65	7.0±2.0
	③	―	―	―	―	―	―	―	―	―
粗骨材	①	砕石4005	広島県呉市広町字蜘蛛取迫	A	化学法	40～5	61.5	2.64	2.65	0.5±0.5
	②	―	―	―	―	―	―	―	―	―
	③	―	―	―	―	―	―	―	―	―

混和剤①	製品名	フローリック SV10L	種類	AE減水剤標準形Ⅰ種	Na2Oeq % j) 1.0
混和剤②		―		―	―

細骨材の塩化物量 k)	① ―	② ―	水の種類 l)	回収水（上澄み水）・地下水	目標スラッジ固形分率 m)	― %
回収骨材の使用方法 o)	細骨材 ―		粗骨材 ―		スラッジ水の使用方法 n)	―

配合表 p) kg/m³

セメント	混和材	水 q)	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤① r)	混和剤② r)
261	―	154	576	249	―	1063	―	―	1.83	―

水セメント比 s)	59.0 %	水結合材比 s)	― %	細骨材率	43.9 %

備考

細骨材使用比率（容積比）①：②＝70：30
粗骨材使用比率（容積比）1505:2010:4020＝22:33:45

修正標準配合として次に示す適用期間の間、混和剤の単位量のみ変更致します。
夏期6月11日～9月30日 C×0.85%、冬期12月21日～2月29日 C×0.6%

骨材の質量配合割合，t) 混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。

レディーミクストコンクリート配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項					
	軽量コンクリートの単位容積質量	－ kg/m³	空気量	－ %
	コンクリートの温度	－ ℃	混和材料の種類及び使用量	－
	呼び強度を保証する材齢	－ 日	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
	水セメント比の目標値の上限	60 %	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³	塩化物含有量	0.30 kg/m³以下
	流動化後のスランプ増大量	－ cm		

変動係数	V	当工場の実績により	10 %
配合強度	m	$m = \dfrac{1.0 \times S_L}{1 - \dfrac{2.0 \times V}{100}} = 30.0$	30.0 N/mm²
水セメント比	W/C	$m = a + b \times C/W = -10.75 + 24.11 \times C/W$ $W/C = \dfrac{b}{m - a} = \dfrac{24.11}{30.0 + 10.75} \times 100 = 59.0$	59.0 %
単位水量	W	当工場の実績により	154 kg/m³
単位セメント量	C	$C = \dfrac{W}{W/C} \times 100 = \dfrac{154}{59.0} \times 100 = 261$	261 kg/m³
	Cv	Cv = C ÷ 密度 = 261 ÷ 3.04 = 86	86 L/m³
空気量	A	A = 設計容積 × 空気量(%) = 1000 × 4.5(%) = 45	45 L/m³
粗骨材かさ容積	Gv'	当工場の実績により（実積率＝61.5 %）	0.652 m³/m³
単位粗骨材量	Gv	Gv＝かさ容積×実積率(%) = 652 × 61.5(%) = 401	401 L/m³
	G	G = Gv × 密度(2.65) = 1063	1063 kg/m³
単位細骨材量	Sv	Sv＝設計容積－(W＋Cv＋Gv＋A)＝1000－(154＋86＋401＋45)＝314	314 L/m³
	Sv1	①Sv1 = Sv × 70(%) = 220	220 L/m³
	Sv2	②Sv2 = Sv × 30(%) = 94	94 L/m³
	S1	①S1 = Sv1 × 密度(2.62) = 576	576 kg/m³
	S2	②S2 = Sv2 × 密度(2.65) = 249	249 kg/m³
細骨材率	S/a	$S/a = \dfrac{Sv}{Sv + Gv} \times 100 = \dfrac{314}{314 + 401} \times 100 = 43.9$	43.9 %
単位混和剤量	AD	AD＝C×添加率(%)＝261×0.7(%)＝1.83	1.83 kg/m³

配合表 p) kg/m³

セメント	混和材	水 q)	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤① r)	混和剤② r)
261	－	154	576	249	－	1063	－	－	1.83	－

水セメント比 s)	59.0 %	水結合材比 s)	－ %	細骨材率	43.9 %

備考

レディーミクストコンクリート配合計画書

No.

2025 年 4 月 1 日

殿

呉コンクリート株式会社
呉市広大広二丁目１８番２９号

配合計画者名 岡田 哲郎

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間 a)	3月1日～ 6月10日、10月1日～ 12月20日（標準配合） 左記以外の期間は備考欄に記述。
コンクリートの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載	
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法 b)	BB	
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	－	kg/m³
	舗装コンクリートの強度試験方法	－	コンクリートの温度	－	℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水セメント比及び／又は水結合材比の目標値の上限	60	%
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載			
	塩化物含有量	0.30 kg/m³以下	単位水量の目標値の上限	－	kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	－ 日	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	－	kg/m³
	空気量	－ %	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－	cm

使用材料 c)

セメント	生産者名	ＵＢＥ三菱セメント㈱		密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq % d)	－
混和材	製品名	－	種類 －	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq % e)	－

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分 f) 区分	試験方法	粒の大きさの範囲 g)	粗粒率又は実積率 h)	密度 g/cm³ 絶乾	表乾	微粒分量の範囲% i)
細骨材	①	砕砂	広島県呉市広町字蜘蛛取迫	A	化学法	5.0以下	2.75	2.58	2.62	3.5±1.5
	②	砕砂	大分県津久見市上青江戸高鉱山	A	モルタルバー法	5.0以下	2.85	2.62	2.65	7.0±2.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石4005	広島県呉市広町字蜘蛛取迫	A	化学法	40～5	61.5	2.64	2.65	0.5±0.5
	②	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	ﾌﾛｰﾘｯｸ SV10L	種類	AE減水剤標準形Ｉ種	Na_2Oeq % j) 1.0
混和剤②		－		－	－

細骨材の塩化物量 k)	① －	② －	水の種類 l)	回収水（上澄み水）・地下水	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率 m)	－ %
回収骨材の使用方法 o)	細骨材	Ｂ方法	粗骨材	－	スラッジ水の使用方法 n)	－

配合表 p) kg/m³

セメント	混和材	水 q)	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤① r)	混和剤② r)
261	－	154	576	249	－	1063	－	－	1.83	－

水セメント比 s)	59.0 %	水結合材比 s)	－ %	細骨材率	43.9 %

備考

粗骨材使用比率(容積比) 1505:2010:4020＝22:33:45

修正標準配合として次に示す適用期間の間、混和剤の単位量のみ変更致します。
夏期6月11日～9月30日 Ｃ×0.85%、冬期12月21日～2月29日 Ｃ×0.6%

骨材の質量配合割合,t) 混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。

レディーミクストコンクリート配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項					
	軽量コンクリートの単位容積質量	− kg/m³	空気量	− %
	コンクリートの温度	− ℃	混和材料の種類及び使用量	−
	呼び強度を保証する材齢	− 日	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
	水セメント比の目標値の上限	60 %	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	− kg/m³
	単位水量の目標値の上限	− kg/m³	塩化物含有量	0.30 kg/m³以下
	流動化後のスランプ増大量	− cm		

変動係数	V	当工場の実績により	10 %
配合強度	m	$m = \frac{1.0 \times S_1}{1 - \frac{2.0 \times V}{100}} = 30.0$	30.0 N/mm²
水セメント比	W/C	$m = a + b \times C/W = -10.75 + 24.11 \times C/W$ $W/C = \frac{b}{m - a} = \frac{24.11}{30.0 + 10.75} \times 100 = 59.0$	59.0 %
単位水量	W	当工場の実績により	154 kg/m³
単位セメント量	C	$C = \frac{W}{W/C} \times 100 = \frac{154}{59.0} \times 100 = 261$	261 kg/m³
	Cv	Cv = C ÷ 密度 = 261 ÷ 3.04 = 86	86 L/m³
空気量	A	A = 設計容積 × 空気量(%) = 1000 × 4.5(%) = 45	45 L/m³
粗骨材かさ容積	Gv'	当工場の実績により（実積率=61.5 %）	0.652 m³/m³
単位粗骨材量	Gv	Gv=かさ容積×実積率(%) = 652 × 61.5(%) = 401	401 L/m³
	G	G = Gv × 密度(2.65) = 1063	1063 kg/m³
単位細骨材量	Sv	Sv=設計容積−(W+Cv+Gv+A)=1000−(154+86+401+45)=314	314 L/m³
	Sv1	①Sv1 = Sv × 70(%) = 220	220 L/m³
	Sv2	②Sv2 = Sv × 30(%) = 94	94 L/m³
	S1	①S1 = Sv1 × 密度(2.62) = 576	576 kg/m³
	S2	②S2 = Sv2 × 密度(2.65) = 249	249 kg/m³
細骨材率	S/a	$S/a = \frac{Sv}{Sv+Gv} \times 100 = \frac{314}{314+401} \times 100 = 43.9$	43.9 %
単位混和剤量	AD	AD=C×添加率(%)=261×0.7(%)=1.83	1.83 kg/m³

配合表 p) kg/m³

セメント	混和材	水 q)	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤① r)	混和剤② r)
261	−	154	576	249	−	1063	−	−	1.83	−

水セメント比 s)	59.0 %	水結合材比 s)	− %	細骨材率	43.9 %

備考